

2024年度第1四半期決算説明会

2024年8月6日

参天製薬株式会社



業績概要

越路 和朗

チーフ ファイナンシャル オフィサー

2024年度 第1四半期決算サマリー

新製品の立ち上がりと為替影響も含む海外地域の堅調な推移により、ジクアスLXの回収及び出荷停止の影響を吸収し第1四半期は前年同期比増収増益通期売上予想を上方修正。通期利益予想は変更なし

■ 2024年度第1四半期実績

- 売上収益：前年同期比+3.3%（748億円） / 対通期予想進捗率25%
- コア営業利益：前年同期比+2.2%（159億円） / 対通期予想進捗率29%

■ 製品供給関連Update

- 能登工場ユニットドーズライン（震災影響）：上期中の再稼働を目指す
- ジクアスLX：原因追求に時間を要することを見込み、一旦通期出荷停止の前提

■ 通期業績予想

- 売上収益：3,020億円（修正）
- コア営業利益：550億円
- EPS：92.22円

USD (円)	138.01	156.88
EUR (円)	149.80	168.77
CNY (円)	19.58	21.80

対前年同期比増収増益で着地

(単位：億円)	2023年度 第1四半期		2024年度 第1四半期		
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率
売上収益	724	-	748	-	+3.3%
売上原価	300	41%	320	43%	+6.8%
売上総利益	424	59%	428	57%	+0.8%
販売費及び一般管理費	207	29%	214	29%	+3.5%
研究開発費	62	9%	55	7%	-11.5%
コア営業利益	155	21%	159	21%	+2.2%
ノンコア費用	5	1%	-	-	-100.0%
製品に係る無形資産償却費	23	3%	24	3%	+4.5%
その他の収益	3	0%	1	0%	-79.1%
その他の費用	2	0%	4	0%	+61.2%
営業利益	127	18%	132	18%	+3.2%
金融収益	11	1%	7	1%	-33.2%
金融費用	2	0%	4	1%	+141.8%
持分法による投資損失	8	1%	-	-	-100.0%
税引前四半期利益	129	18%	135	18%	+4.5%
法人所得税費用	25	3%	28	4%	+15.8%
(税負担率)	19.1%	-	21.1%	-	+2.0pt
四半期利益	104	14%	106	14%	+1.9%
コア四半期利益	128	18%	125	17%	-2.1%

売上収益：+3.3%

- 海外事業（中国・アジア・EMEA）
：前年同期比+11%（為替影響込）、-0.4%（為替影響抜き。為替及び前年度のIkervis（EMEA）に関連する23億円の一過性要因を除くと+8%）

売上総利益：+0.8%

- 地域/製品構成等により原価率が対前年同期比上昇

営業利益（コアベース）：+2.2%

- 円安影響により販管費は絶対額で増加したが、コスト最適化により販管費率は維持
- 研究開発費は各Q1における臨床試験数の差及び構造改革により減少

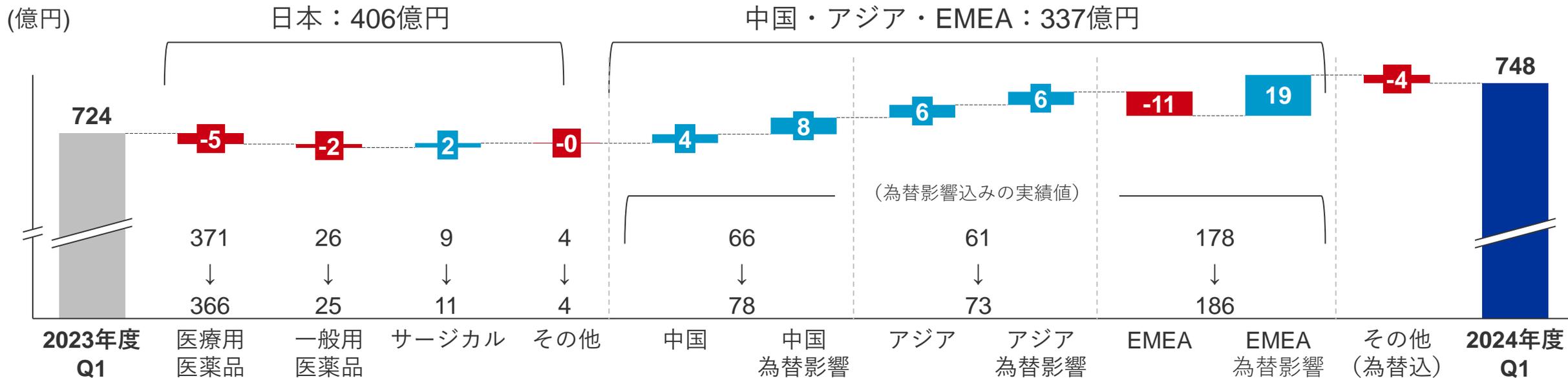
営業利益（IFRS）：+3.2%

- 構造改革は前期にて終了

四半期利益（IFRS）：+1.9%

- 今期は持分法投資損失の発生なし
- 一過性要因を除いた税率：18.4%

海外の為替を含む堅調な推移が日本をカバー



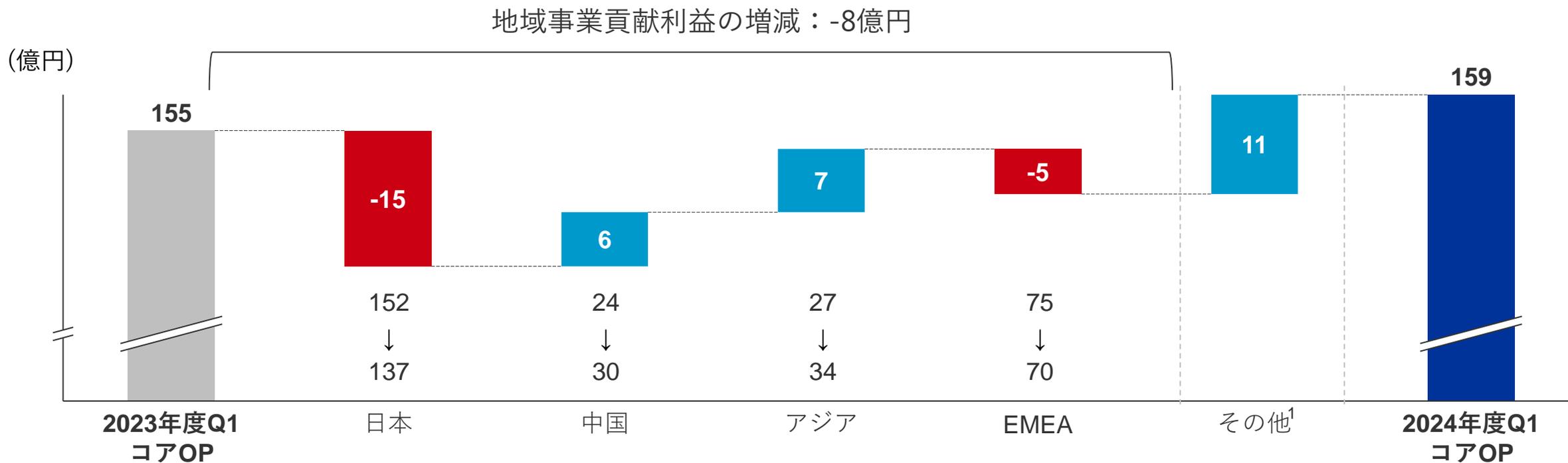
日本 対前年同期 -1.1%：薬価改定やジクアスLXの自主回収に伴う影響はあったが、アレジオン眼瞼クリームの順調な初動などにより影響を最小化

中国 対前年同期 +18.4%（為替影響除外 +6.4%）：ジクアスのVBP影響はあるが、マルチチャンネル品が堅調に推移

アジア 対前年同期 +20.0%（為替影響除外 +9.9%）：韓国・ベトナムを中心とした主要市場で緑内障やドライアイ製品が堅調に推移

EMEA 対前年同期 +4.5%（為替影響除外 -6.4%）：前年のIkervis一過性要因（23億円）の反動はあるが、緑内障やドライアイ製品が伸長

海外事業の貢献により、対前年同期比増益を確保



地域事業
貢献利益の増減

日本：薬価改定やジクアスLXの自主回収による売上減少および製品構成、ジクアスLX回収関連費用等の影響により、貢献利益が減少
海外：中国・アジアでは売上収益の増加やコスト最適化により貢献利益は増加。EMEAは前年度のIkervis一過性要因の反動による減少

その他増減

米州医薬品販売事業の合理化を含む構造改革やコスト最適化

⁶ 1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、および上記以外の地域に関連する貢献利益

	FY2023 実績	FY2024 予想（8/6）	FY2024 予想（5/9）
USD（円）	144.80	155.00	145.00
EUR（円）	156.88	165.00	155.00
CNY（円）	20.24	21.30	20.00

通期利益予想は変更なし

（単位：億円）

	2023年度		2024年度			2024年度	
	実績	対売上 収益比率	予想 (8/6)	対売上 収益比率	対前期 増減率	予想 (5/9)	対売上 収益比率
売上収益	3,020	-	1 3,020	-	+0.0%	2,970	-
売上原価	1,231	41%	2 1,290	43%	+4.8%	1,275	43%
売上総利益	1,789	59%	1,730	57%	-3.3%	1,695	57%
販売費及び一般管理費	908	30%	3 910	30%	+0.2%	885	30%
研究開発費	253	8%	270	9%	+6.9%	260	9%
コア営業利益	628	21%	550	18%	-12.4%	550	19%
ノンコア費用	10	0%	-	-	-100.0%	-	-
製品に係る無形資産償却費	95	3%	88	3%	-7.1%	88	3%
その他の収益	15	1%	7	0%	-54.8%	7	0%
その他の費用	153	5%	24	1%	-84.3%	24	1%
営業利益	385	13%	445	15%	+15.5%	445	15%
金融収益	16	1%	20	1%	+27.2%	20	1%
金融費用	27	1%	15	0%	-43.7%	15	1%
持分法による投資損失	76	3%	-	-	-100.0%	-	-
税引前当期利益	299	10%	450	15%	+50.6%	450	15%
法人所得税費用	32	1%	115	4%	+262.6%	115	4%
(税負担率)	10.6%	-	26%	-	-	26%	-
当期利益	267	9%	335	11%	+25.5%	335	11%
ROE	8.9%		11%			11%	
コアROE	16.2%		14%			14%	
コア当期利益	485	16%	413	14%	-15.0%	413	14%

（8/6 修正予想）

売上収益：3,020億円

外貨換算レート更新により金額増加するがPL構成比は変化なし

コア営業利益：550億円（変更なし）

以下、段階利益は変更なし

期初EPS@92円を確保

1 売上収益

- 日本：ジクアスLXのマイナス影響と、その他品目の増加分などを反映
- 海外：為替影響などを反映

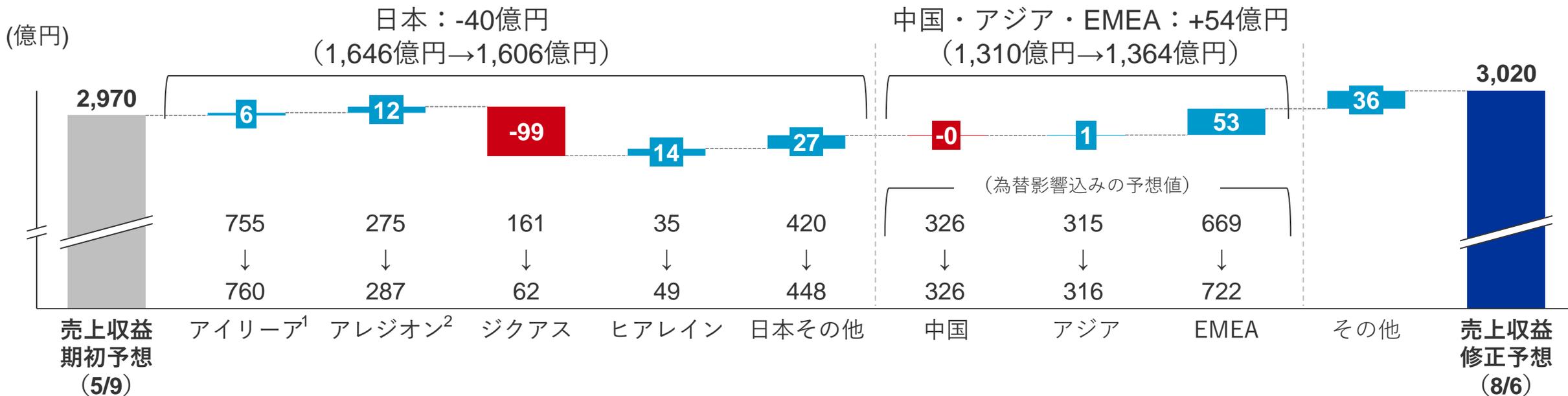
2 売上原価

地域/製品構成の変化等はあるが同等の原価率を維持

3 販管費・R&D費用

- 為替影響により増加
- コスト最適化を反映

ジクアスLXのマイナス影響を他製品/地域等でカバー。更なるアップサイドを追求

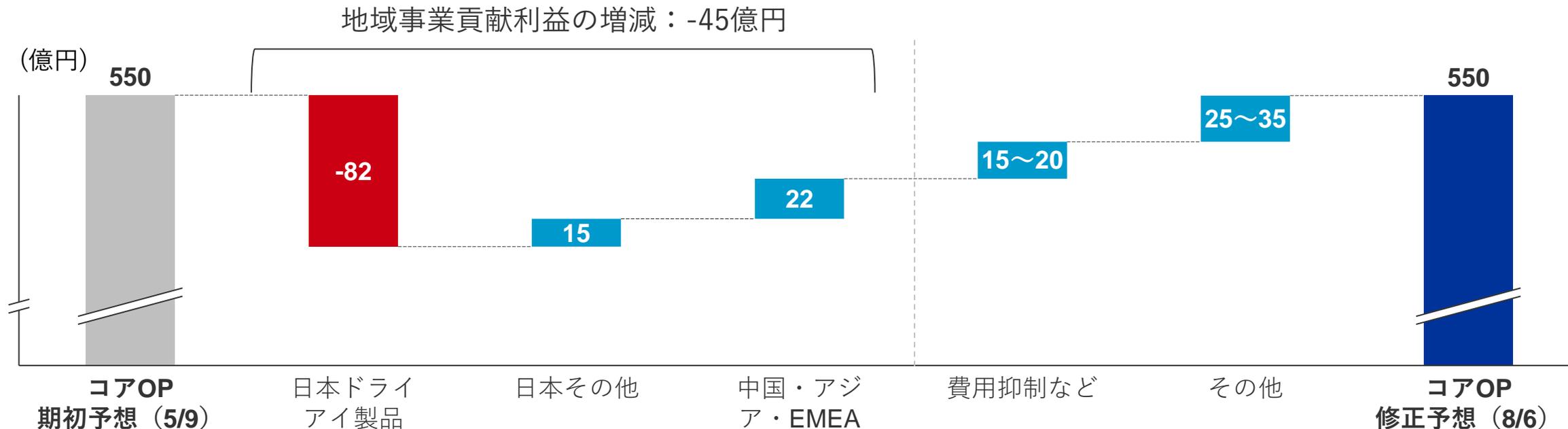


日本	アイリーア：承認された後発品の適応症が限定的であったことを反映 アレジオン：アレジオン眼瞼クリーム的好調な初動などを反映（内アレジオン眼瞼クリーム：期初予想67億円→修正予想73億円） ジクアス・ヒアレイン：ジクアスLX自主回収による減少とジクアス・ヒアレインの増加を反映（内ジクアスLX：期初予想134億円→修正予想0） その他：上記4品目以外の見直し。期初に織り込んでいた製品供給影響の他地域への振り替え含む
中国・アジア・EMEA	為替のプラス影響および、中国・アジアの製品供給リスクによるマイナス影響を反映
その他	インオーガニックを含むアップサイドポテンシャルを反映

全社調整：期初予想には主に能登震災に起因する製品供給リスクのマイナス影響を日本とその他に織り込んでいたが、今回の修正予想で影響地域を精緻に見積り、中国とアジアに振り分けを実施

8 1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品。アイリーア8mgを含む
 2 アレジオン: 提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標。アレジオンLX・アレジオン眼瞼クリームを含む

日本の貢献利益は期初予想比で減少となるが、 為替を含む海外のプラス要因やコスト最適化の更なる強化でコア営業利益を維持



地域事業 貢献利益の増減	<ul style="list-style-type: none"> 日本 (貢献利益減少要因)：ジクアスLXの通期出荷停止や自主回収等にかかる費用、ジクアスやヒアレインなどの見直しを含むドライアイ製品に関連する貢献利益の減少 (貢献利益増加要因)：その他品目の売上増加による利益増加、販管費の削減等 海外：主にEMEAの為替影響による利益増加
費用抑制などによる 利益増加	コスト最適化の継続
その他	インオーガニックを含むアップサイドポテンシャルを想定

研究開発アップデート

ピーター・サルスティグ
チーフ メディカル オフィサー

5月にアレジオン眼瞼クリームを日本で上市

眼瞼下垂は、日本、中国、アジアに続き欧州でも臨床開発計画が確定

既存疾患領域	エピナスチン塩酸塩 STN1011402 アレジオン眼瞼クリーム	アレルギー性 結膜炎	日本で、 上市
	オミデネパグ イソプロピル STN1011702 エイベリスミニ	緑内障	中国で、 P3試験準備を開始
新規疾患領域	オキシメタゾリン塩酸塩 STN1013800 RVL-1201	眼瞼下垂	中国に加え欧州で、 P3試験準備を開始
	シロリムス点眼剤 STN1010905	マイボーム腺 機能不全	日本での追加P2a試験で、 FPI¹

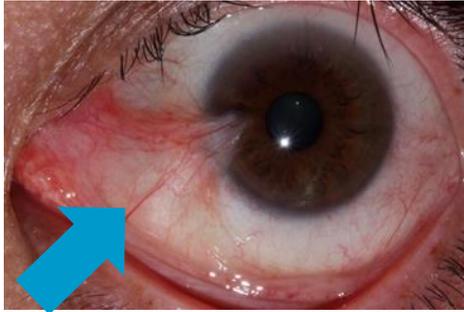
11 1 FPI : First Patient In
アレジオン：提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標

翼状片：CBT-001

全身薬の眼科応用により

手術中心の翼状片治療に新しい治療選択肢の提供を目指す

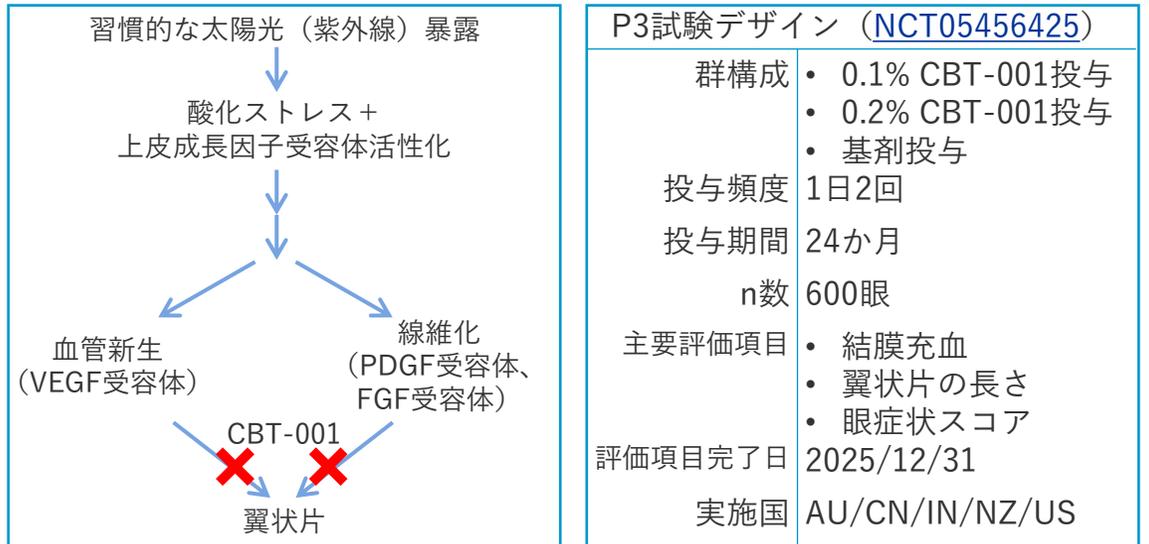
翼状片



- 結膜下の組織が異常増殖し、血管を伴った三角形の組織が角膜の中心に向かい侵入したもの
- 目頭側から発生することが多く、悪性ではない
- 太陽光（紫外線）への暴露が主なリスクファクター
- 日光の暴露が多い赤道から緯度40までに患者が多い
- 異物感、充血や乱視などを引き起こす
- 症状緩和のためにドライアイ治療薬やステロイドが処方されることもあるが、根本的な治療は現在手術のみ
- 術式にもよるが、再発する傾向にあり翼状片手術の課題
- 有病率：日本 40歳以上の4%¹、韓国 3.8%²、ベトナム・マレーシア・フィリピン・タイ 40歳以上の10.1%³

CBT-001

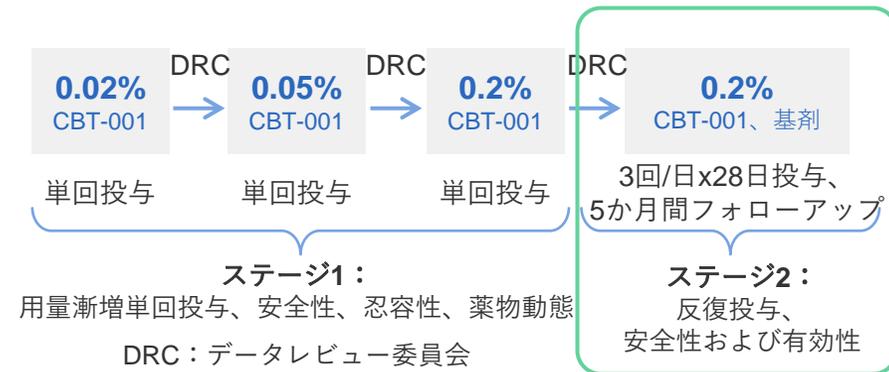
- ニンテダニブを有効成分とする点眼剤
- マルチキナーゼ阻害剤であり、VEGF受容体および、PDGF受容体、FGF受容体に作用し、血管新生および線維化を抑制
- 米国でP2a完了（次頁参照）
国際共同試験としてP3を実施中（日本含まず）



12 1. Tano et al, *Acta Ophthalmol* 91(3):e232-6, 2013 2. Rim TH et al, *PLOS One* 12(3) e0171954, 2017
3. Ang M et al, *Ophthalmology* 119(8):1509e15, 2012

米国でのP2a試験にて、POC取得済み

翼状片患者におけるCBT-001点眼剤の安全性および有効性 (NCT03049852)



ステージ2の結果

- 最も頻度高く報告されたCBT-001に関連する有害事象は、眼に関する中程度のものであり（結膜変色）、投薬終了後には解消され、これによる脱落例は無かった
- ベースラインでの人口統計学的特性は、CBT-001 (n=25) と基剤 (n=23) 投与の患者間で類似していた
- 投与後4週の平均血管分布グレードは、基剤 (0.0) に比べCBT-001 (-0.8) 投与の患者において有意に減少していた (p<0.001)
- 血管分布グレードは、投与後8週および16週においても有意な減少が維持されていたが、投与後24週においては維持されていなかった
- CBT-001群の投与後4週および8週の翼状片の長さが、有意に縮小した (p<0.05)

図1. ベースラインからの翼状片血管分布平均グレードの変化 (p-value: 薬剤 vs 基剤)

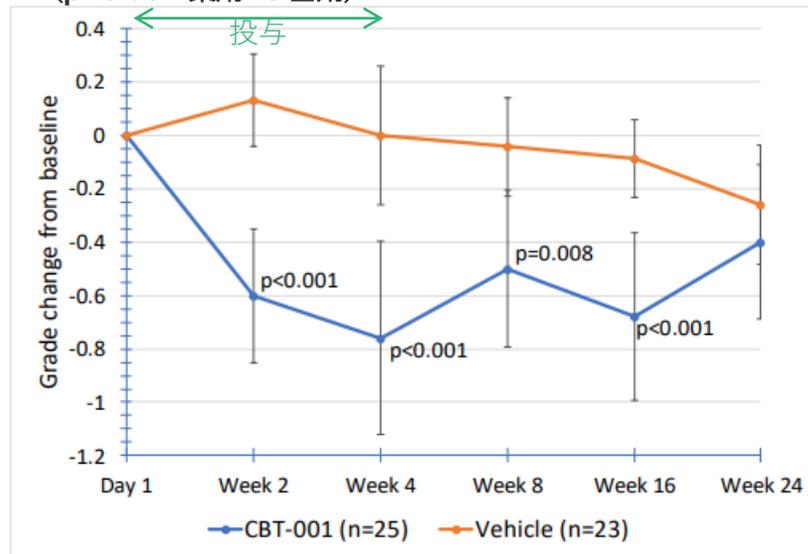
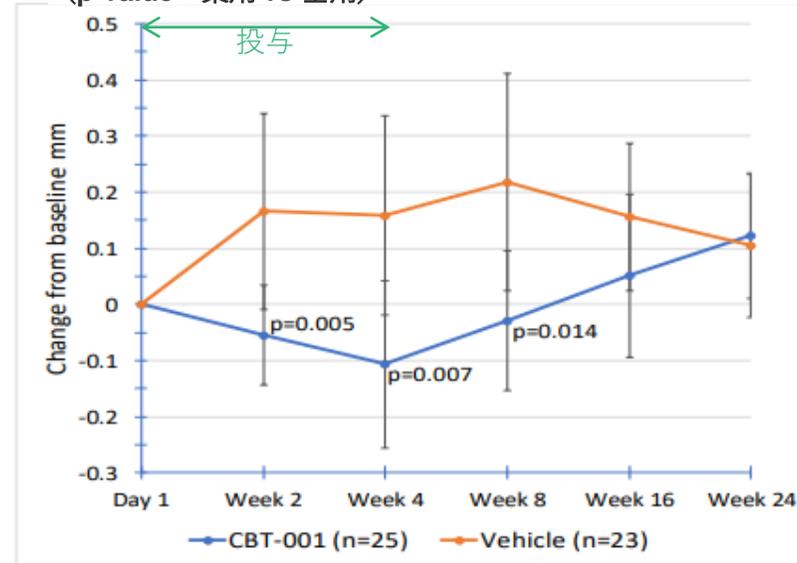


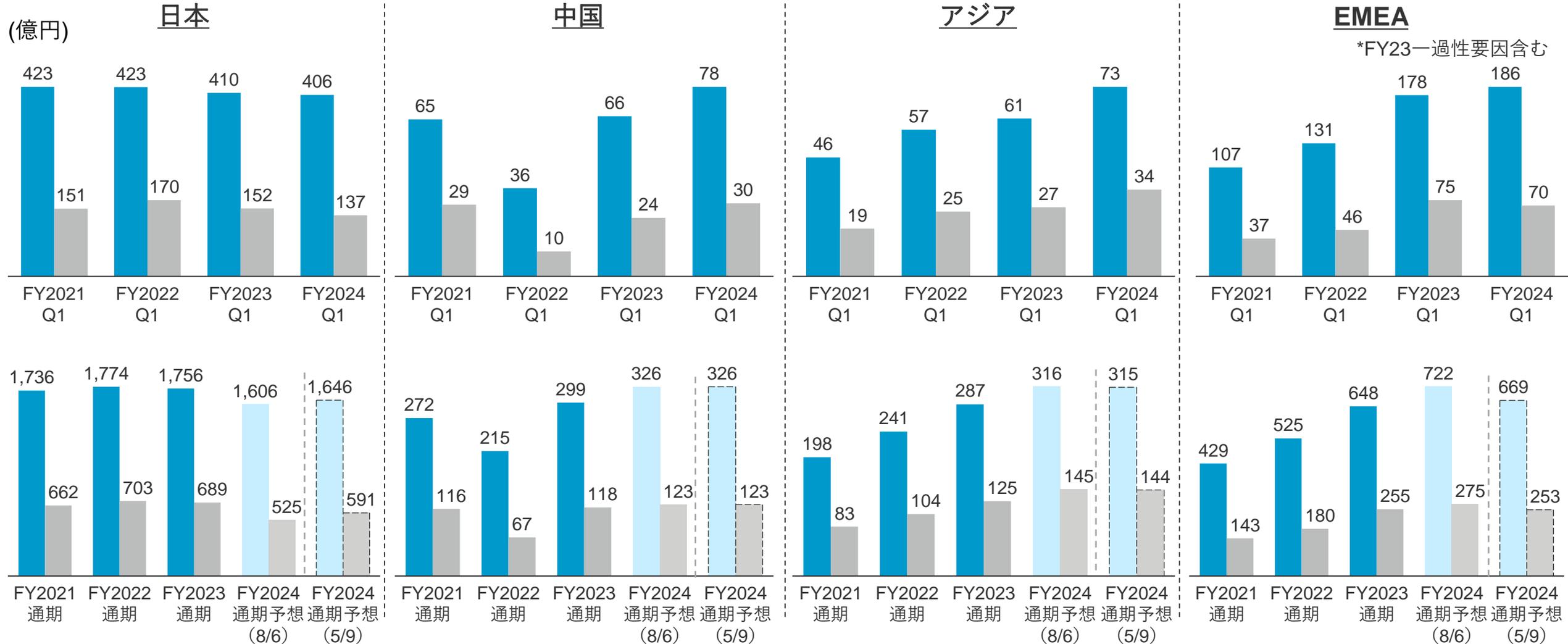
図4. ベースラインからの翼状片長の平均変化値 (p-value: 薬剤 vs 基剤)



Appendix

地域別売上収益・貢献利益

■ 売上収益 ■ 貢献利益

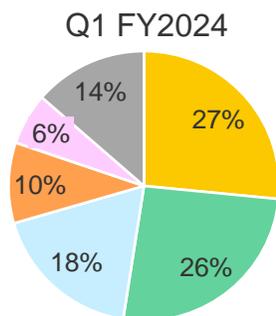


貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したもの。貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致していません。2023年度に実施した海外地域の組織変更影響を2023年度/2024年度に反映しています。

2024年度第1四半期 仕向地域別売上収益

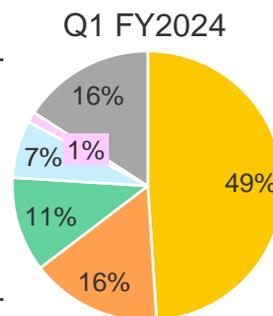
連結合計

YTD	Q1 FY2023 (参考)	Q1 FY2024
アイリーア硝子体内注射液 ¹	185億円	199億円
コソプト配合点眼液	63億円	72億円
アレジオン点眼液 ²	28億円	63億円
その他	448億円	414億円
合計	724億円	748億円



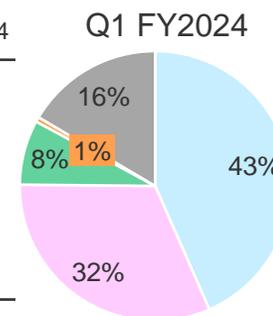
日本

YTD	Q1 FY2023 (参考)	Q1 FY2024
アイリーア硝子体内注射液 ¹	185億円	199億円
アレジオン点眼液 ²	28億円	63億円
ヒアレイン点眼液	14億円	12億円
その他	184億円	132億円
合計	410億円	406億円



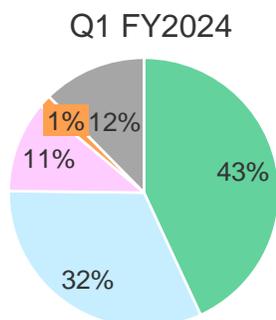
中国

YTD	Q1 FY2023 (参考)	Q1 FY2024
ヒアレイン点眼液	20億円	22億円
クラビット点眼液	16億円	21億円
ジクアス点眼液	11億円	10億円
その他	19億円	24億円
合計	66億円	78億円



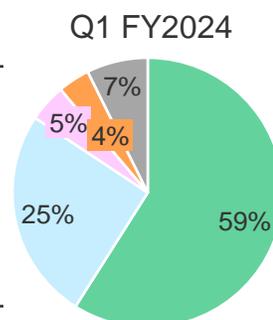
アジア

YTD	Q1 FY2023 (参考)	Q1 FY2024
コソプト配合点眼液	16億円	18億円
ヒアレイン点眼液	6億円	10億円
ジクアス点眼液	5億円	6億円
その他	34億円	39億円
合計	61億円	73億円

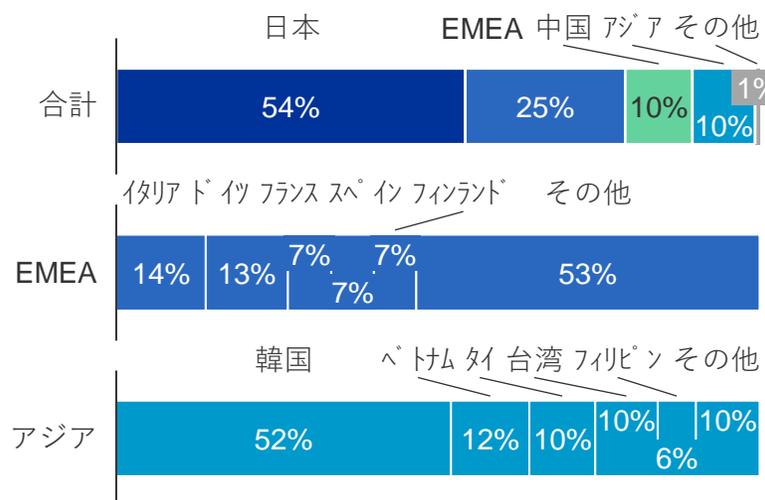


EMEA

YTD	Q1 FY2023 (参考)	Q1 FY2024
コソプト配合点眼液	35億円	45億円
Ikervis	41億円	23億円
タプロス点眼液	21億円	21億円
その他	81億円	96億円
合計	178億円	186億円

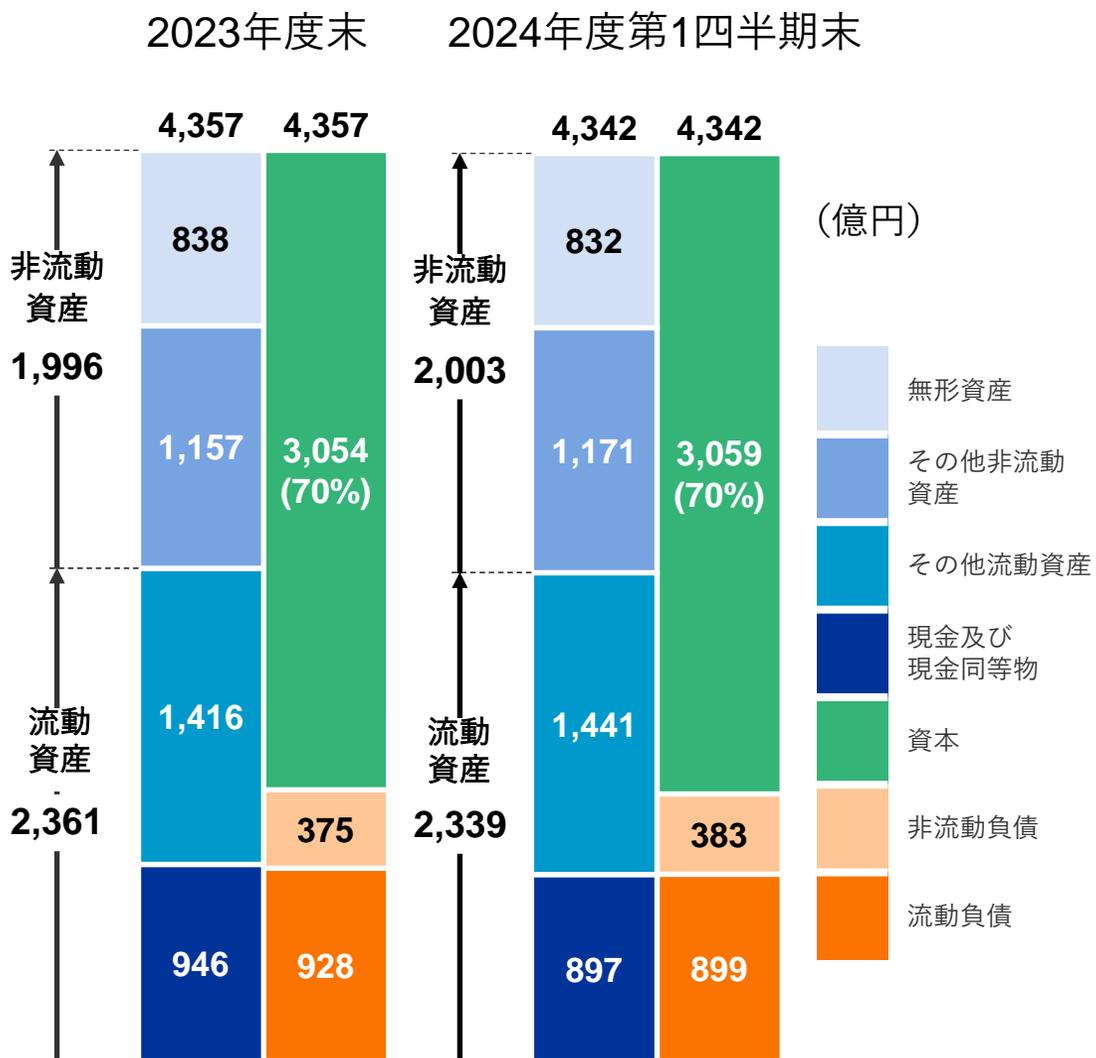


主要国・地域別売上比率 (Q1 FY2024)

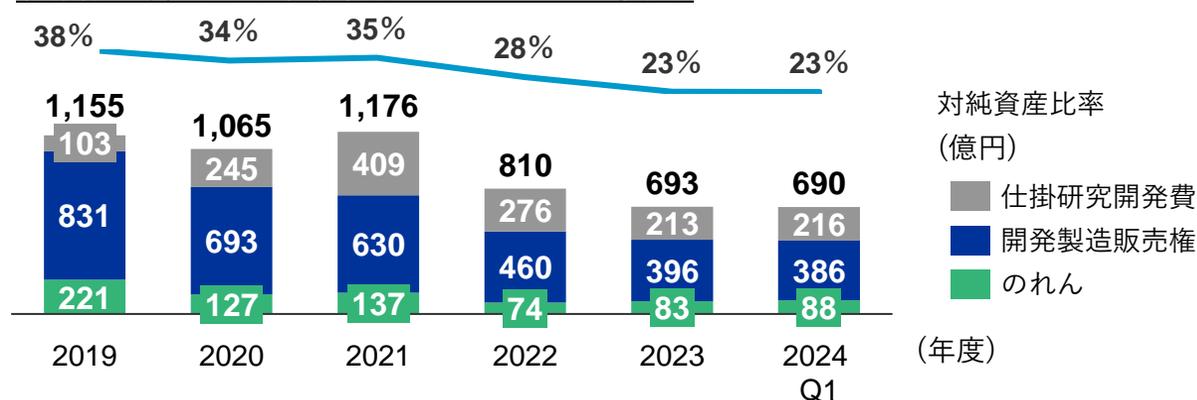


■ 眼科用抗VEGF阻害剤 ■ 緑内障治療薬/デバイス ■ 角結膜疾患治療剤 ■ 抗アレルギー点眼剤 ■ 抗菌点眼剤 ■ その他

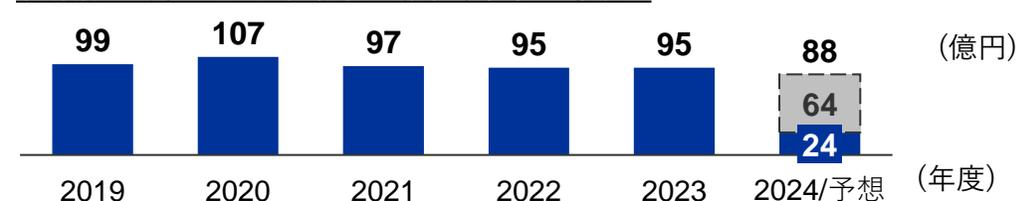
財務健全性・安全性を維持。ROE、ROIC改善のため分母圧縮に取り組む



製品に係る無形資産・のれんの状況



製品に係る無形資産償却費の状況



ROE・コアROE・ROIC

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
コアROE	12%	12%	11%	11%	16%	14% ¹
ROE	8%	3%	8%	-	9%	11% ¹
ROIC	11%	5%	12%	-	16%	17% ²

17 1 自己株式の取得を含む 2 ファクタリングを含む

キャッシュ・フローの推移

2020年度末

2021年度末

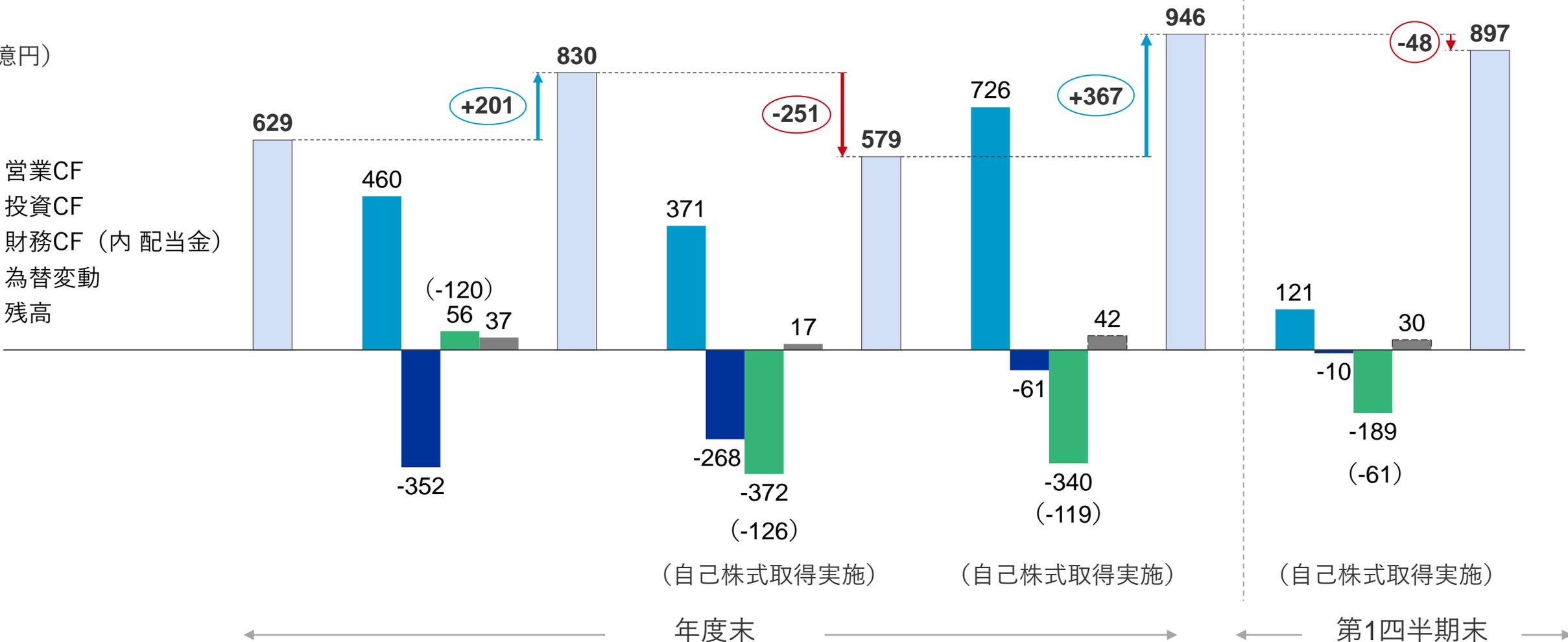
2022年度末

2023年度末

2024年度第1四半期末

(億円)

- 営業CF
- 投資CF
- 財務CF (内 配当金)
- 為替変動
- 残高



外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

(円)

	2023年度 第1四半期 実績	2024年度 第1四半期 実績	対2024年度 通期予想比	2023年度 通期実績	2024年度 通期予想 (8/6)
USD	138.01	156.88	101.2%	144.80	155.00
EUR	149.80	168.77	102.3%	156.88	165.00
CNY	19.58	21.80	102.3%	20.24	21.30

為替感応度

2024年度業績予想（8/6）における予想レート比1%円安時の影響
(億円)

	合計*	USD	EUR	CNY
売上収益	+13	+0.6	+6.6	+3.2
コア営業利益	+2	-0.3	+0.9	+0.6
営業利益 (IFRS)	+1	-0.4	+0.7	+0.5

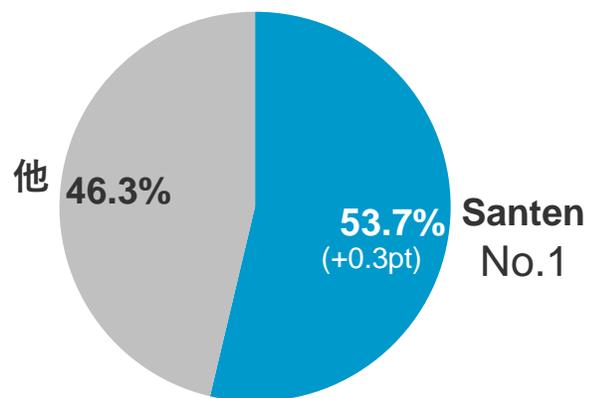
*上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値（小数点以下四捨五入）

2024年度第1四半期実績為替影響
(対前期レート) (億円)

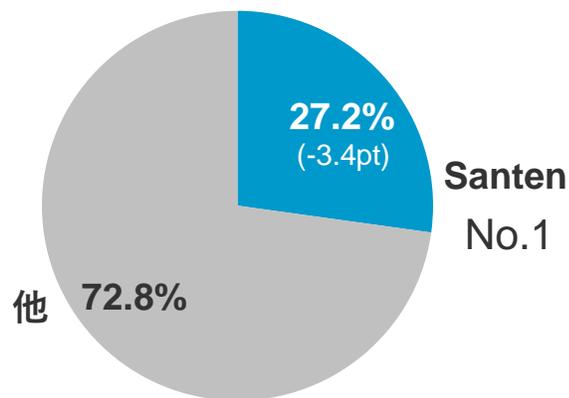
	合計
売上収益	+35
コア営業利益	+5
営業利益 (IFRS)	+4

国内医療用眼科薬 市場概況 (2023年7月-2024年6月累計)

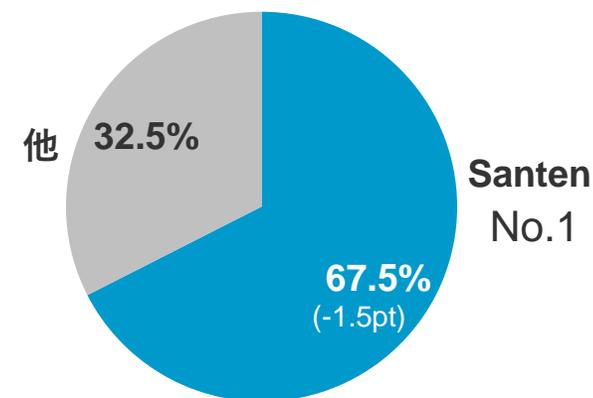
Total : 3,694億円



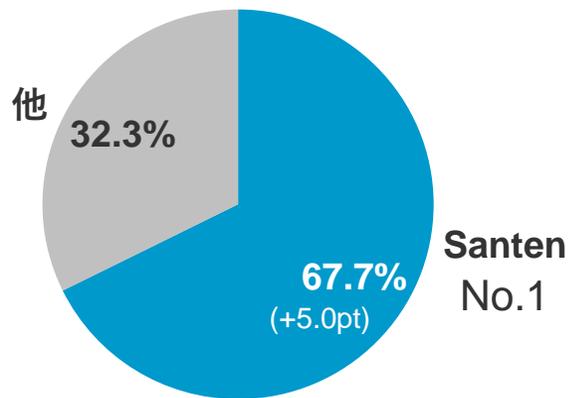
抗緑内障剤 : 862億円



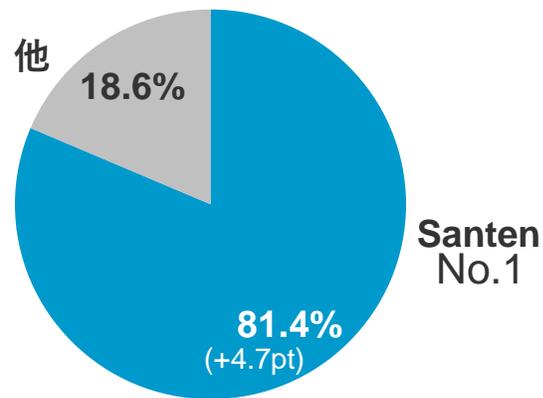
網膜疾患治療剤* : 1,334億円



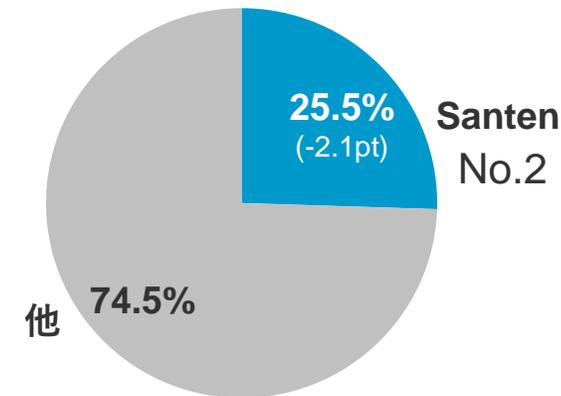
角膜疾患治療剤 : 446億円



抗アレルギー剤 : 497億円



抗菌点眼剤 : 64億円



*製造販売元であるバイエル薬品(株)とのコ・プロモーション製品(眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」「アイリニア8mg」)を含む。販売会社(参天製薬)ベースでの実績。
 出典: Copyright © 2024 IQVIA. JPM 2022.7-2024.6を基に参天分析 無断転載禁止

グローバル開発の状況①

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 ¹	
緑内障	タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タプコム、タプティコム	STN1011101 DE-111A	中国	現状：申請 計画：2024年度 承認
	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN1011702	中国	計画：2024年度 P3開始
	セペタプロスト	STN1012600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
			日本	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2024年度 申請
			欧州	現状：P2（探索的試験）終了
	ラタノプロスト Catiolanze	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：承認 計画：2024年度 上市
			アジア	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2024年度 申請

1. 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

グローバル開発の状況②

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：P3 計画：2024年度 P3終了
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：承認 計画：2024年度 上市
	ネタルスジル メシル酸塩 / ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014000 PG-324	欧州	現状：上市
			アジア	現状：承認 計画：2024年度 上市

グローバル開発の状況③

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	STN1007603 DE-076C	中国	現状：承認
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	STN1008903 DE-089C	日本	現状：上市
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	アジア	現状：承認
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	STN1010904 ¹	日本	現状：P1/2a（主要評価項目達成） 後期臨床試験に向けて計画策定中
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	米国 フランス インド	現状：P2a 計画：2025年度 P2a終了
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	日本	現状：2024年6月 追加P2a開始 計画：2025年度 追加P2a終了
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：2024年5月 上市
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	中国	現状：P3 計画：2025年度 P3終了

1. 当該プログラムはSantenが独占的実施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

グローバル開発の状況④

屈折異常領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩	STN1012700 DE-127	日本	現状：申請 計画：2024年度 承認
			中国	現状：P2/3 計画：2026年度 P2/3終了
			アジア	現状：P2（主要評価項目達成）
		STN1012701 SYD-101	欧州	現状：P3（Sydnexis社実施） 計画：2024年度 P3終了
	AFDX0250BS	STN1013400	日本	現状：P2a 計画：2024年度 P2a終了
			中国	現状：P1（安全性・忍容性を確認）

グローバル開発の状況⑤

その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
			日本	現況：P3（主要評価項目達成） 計画：2024年度 申請
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	STN1013800 RVL-1201	欧州	計画：2024年度 P3開始
			中国	計画：2024年度 P3開始
			アジア	計画：2026年度 申請
			—	現況：P3試験計画策定中
網膜色素変性症	jCell	STN6000100	—	現況：P3試験計画策定中

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

